

いばらきネットモニター ペット同行避難に関する調査結果

1 調査目的

飼い主とペットが共に災害を乗り越えるためには、日ごろからの備えや対策が必要です。また、災害時の対策はその多くが平常時に行うべきものです。

本調査は、ペット同行避難の認知状況や県民の皆様が考える課題等を把握し、今後の取組への参考とするために実施しました。

2 結果の概要

<ペット同行避難の認知状況>

- ・ペット同行避難について、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがある」と答えた人の合計は73.1%であった。
- ・同行避難ができる避難所について、「知らない」と答えた人は97.4%であった。
また、市町村が行う同行避難の広報については、6割以上の方が「不十分」と認識しており、同行避難所の場所が知られていないこと、啓発に課題があることが分かった。

<同行避難に対する考え、災害への備え>

- ・同行避難に対する考えについては、「同行避難について理解し、ペットがいてもよいと思う」が最も高く、次に「避難所にペットはいてほしくないが、災害時にはやむを得ない」、「同行避難は大切で、積極的に進めるべき」の順で、3回答の合計は77.8%となり、同行避難を容認する人が多いことが分かった。
- ・ペットを意識した災害への備えについて、「予防注射、ノミ・ダニ等外部寄生虫の駆除をする」や「ペット関連の災害用の物資等を備蓄する」といった、日常のペットの世話や、物資の備蓄に関する回答が多くを占めた。
一方で、「ペットを考慮したマイ・タイムラインを作成する」は3.6%の回答に留まっており、災害発生時に飼い主がどのように行動するのか、という計画面での課題が見られた。

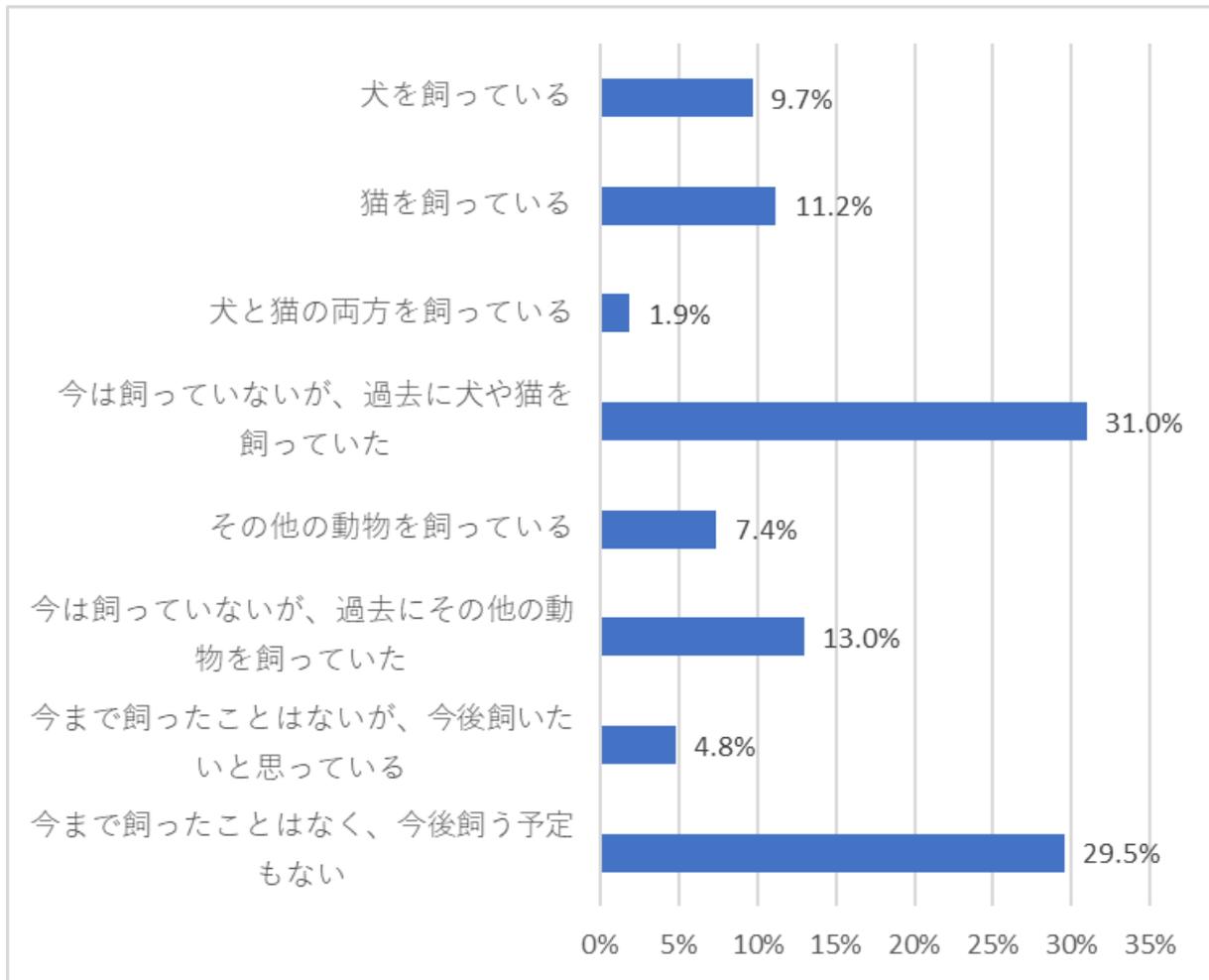
<同行避難所の体制整備>

- ・同行避難所の体制整備を進める上で必要なこととして、「動物が苦手な方、動物アレルギーのある方に配慮すること」が最も高く、次に「避難所内で、ペットを管理する場所をあらかじめ決めておくこと」、「ペット管理のルールを作り、飼い主がルールを遵守するよう徹底すること」となり、他の避難者への配慮に関する回答が多くを占めた。
加えて、「緊急時こそ、ペット同行避難可能な避難所の情報に容易にたどり着けるようにしておくべき」「準備した方が良い物、管理方法などの情報提供があるとよい」など情報提供の必要性を指摘するご意見もあった。

【問1】(犬や猫等の飼育状況)

あなたは、犬や猫を飼っていますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,106)



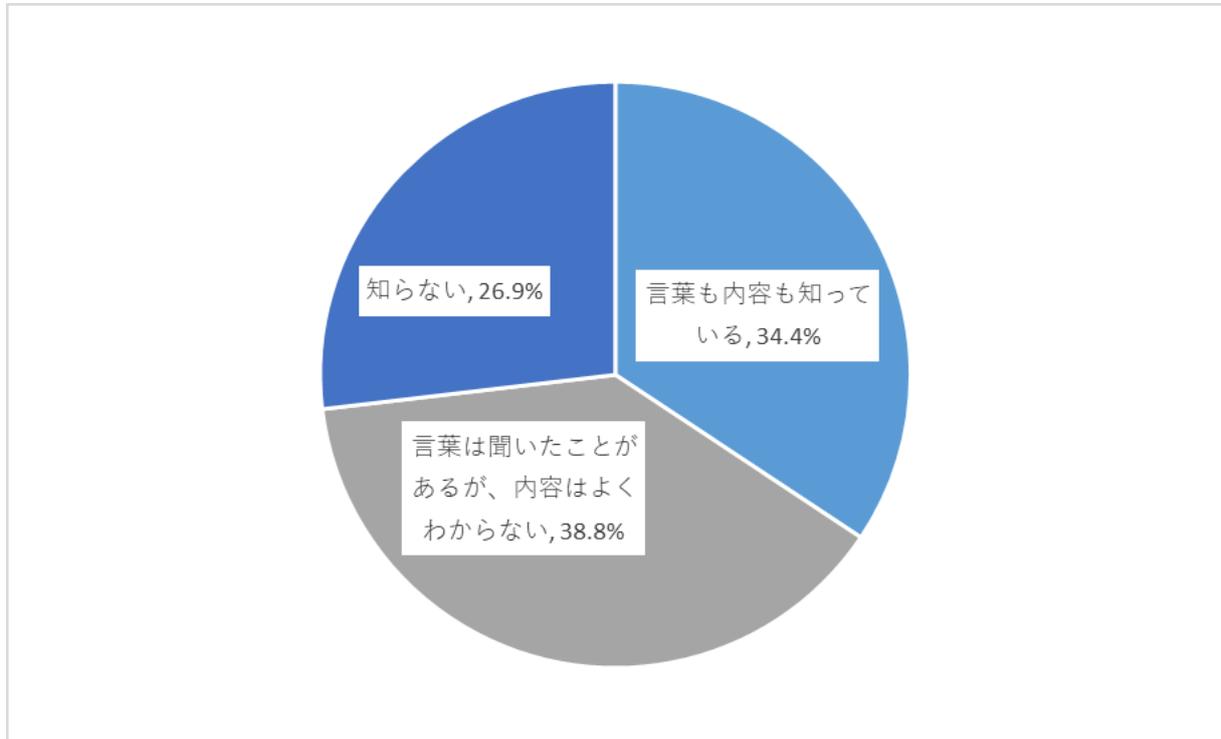
○全体として、「今は飼っていないが、過去に犬や猫を飼っていた」が31.0%と最も多く、次に「今まで飼ったことはなく、今後飼う予定もない」(29.5%)、「今は飼っていないが、過去にその他の動物を飼っていた」(13.0%)、「猫を飼っている」(11.2%)、「犬を飼っている」(9.7%)、「その他の動物を飼っている」(7.4%)、「今まで飼ったことはないが、今後飼いたいと思っている」(4.8%)、「犬と猫の両方を飼っている」(1.9%)となった。

【問2】（「ペット同行避難」の認知度）

あなたは、「ペット同行避難」（※）を知っていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

※ペット同行避難とは、災害時にペットと一緒に避難所等の安全な場所へ逃げることです。

(n=1,106)



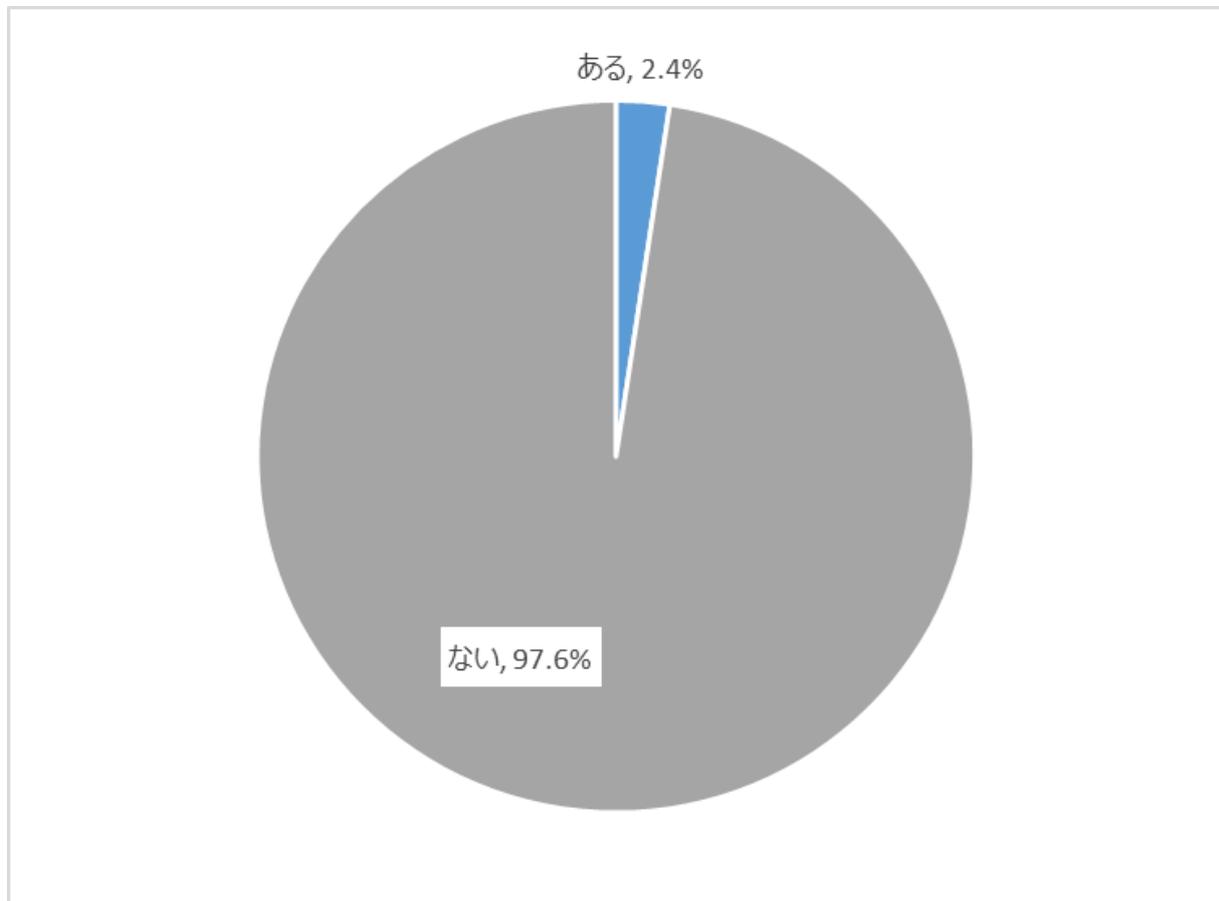
○全体として、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」を合わせた【知っている】が73.1%となった。

【問3】（ペット同行避難をした経験の有無）

（問2で「言葉も内容も知っている」を選択した方へ）

あなたは、災害時にペット同行避難をしたことがありますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=380)

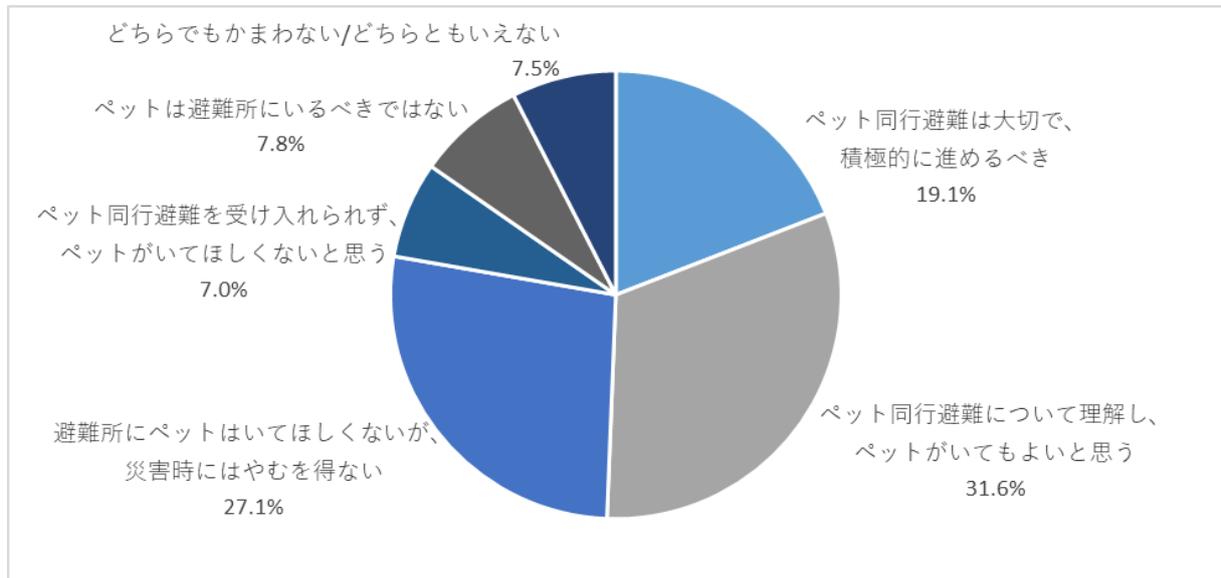


○全体として、「ない」割合が97.6%と9割以上を占め、「ある」割合は2.4%に留まった。

【問4】（ペット同行避難に対する考え方）

あなたは、災害時にペットが避難所に同行することについて、どのように思いますか。次の中から、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

(n=1,106)



○全体として、「ペット同行避難について理解し、ペットがいてもよいと思う」が31.6%と最も高く、次に「避難所にペットはいてほしくないが、災害時にはやむを得ない」(27.1%)、「ペット同行避難は大切で、積極的に進めるべき」(19.1%)となった。

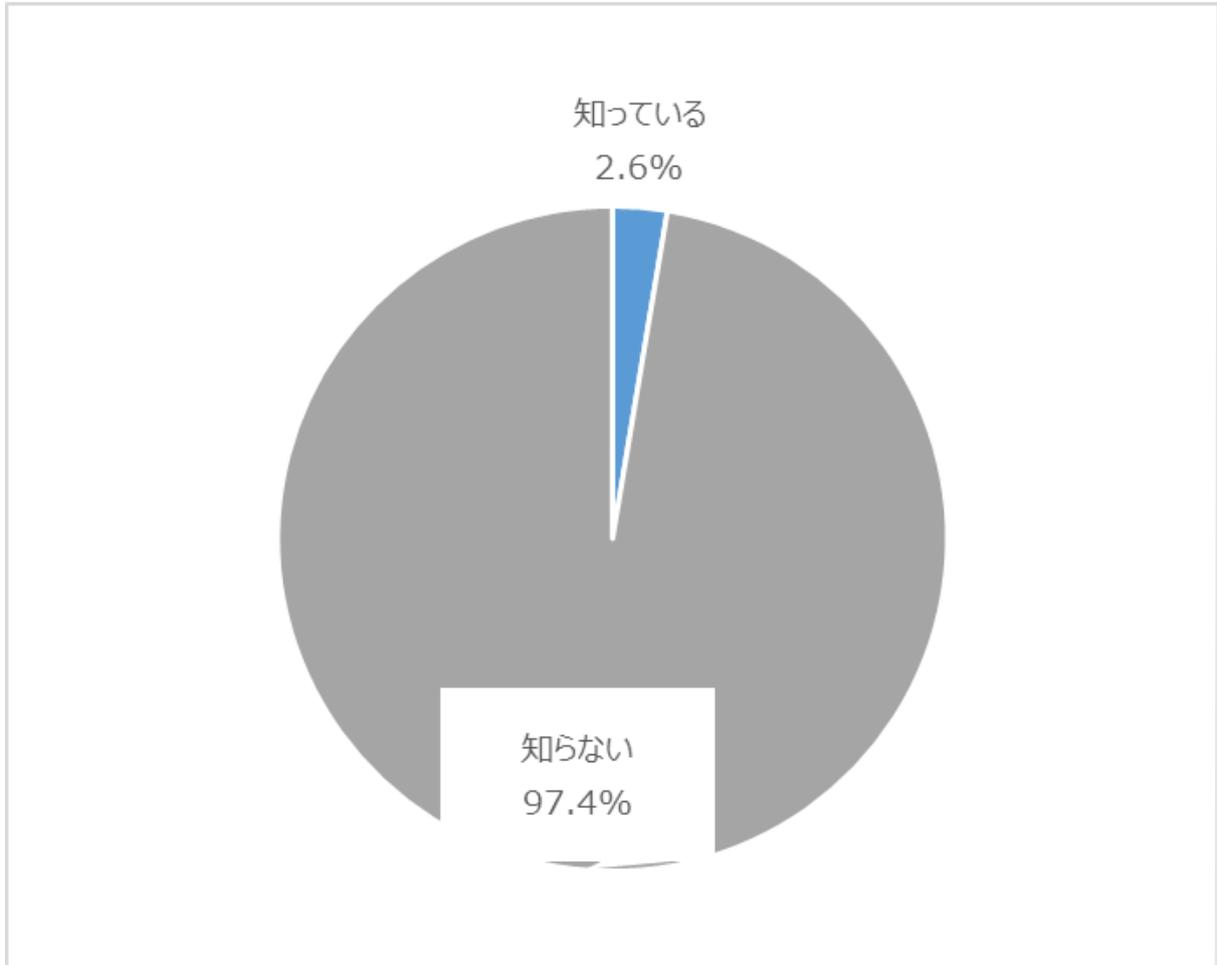
一方、「ペットは避難所にいるべきではない」は7.8%であり、「ペット同行避難を受け入れられず、ペットがいてほしくないと思う」は7.0%、「どちらでもかまわない/どちらともいえない」が7.5%となった。

○「ペット同行避難は大切で、積極的に進めるべき」(19.1%)と「ペット同行避難について理解し、ペットがいてもよいと思う」(31.6%)、「避難所にペットはいてほしくないが、災害時にはやむを得ない」(27.1%)を合わせた【ペット同行避難を容認する】は77.8%であった。

【問5】（ペット同行避難ができる避難所の認知状況）

あなたは、お住まいの市区町村において、ペット同行避難ができる避難所を把握していますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,106)

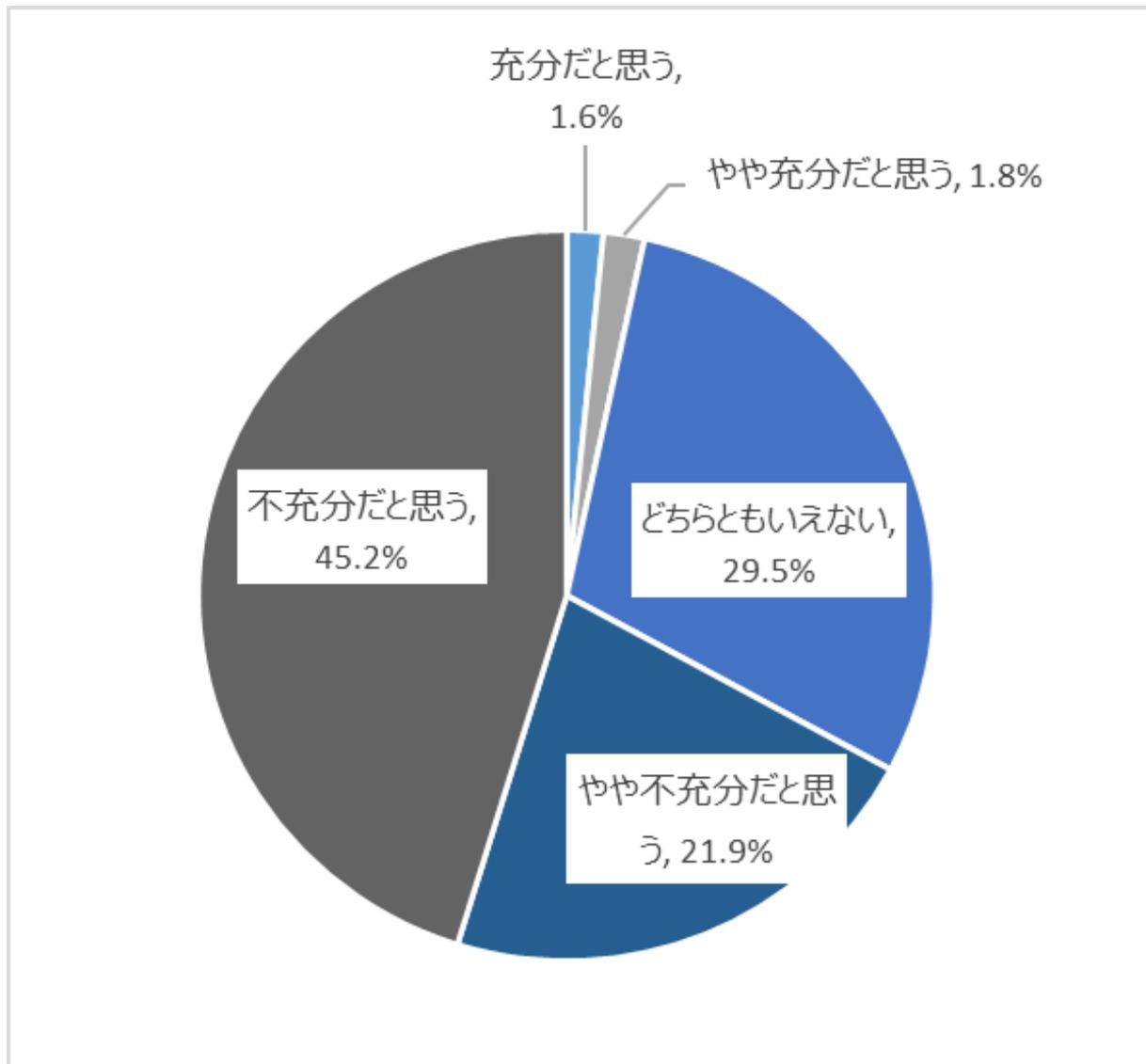


○全体として、「知らない」割合が97.4%と9割以上を占め、「知っている」割合は2.6%に留まった。

【問6】(市区町村の広報に関する満足度)

あなたは、お住まいの市区町村が実施している、ペット同行避難についての広報・啓発方法及び内容は充分だと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください

(n=1,106)



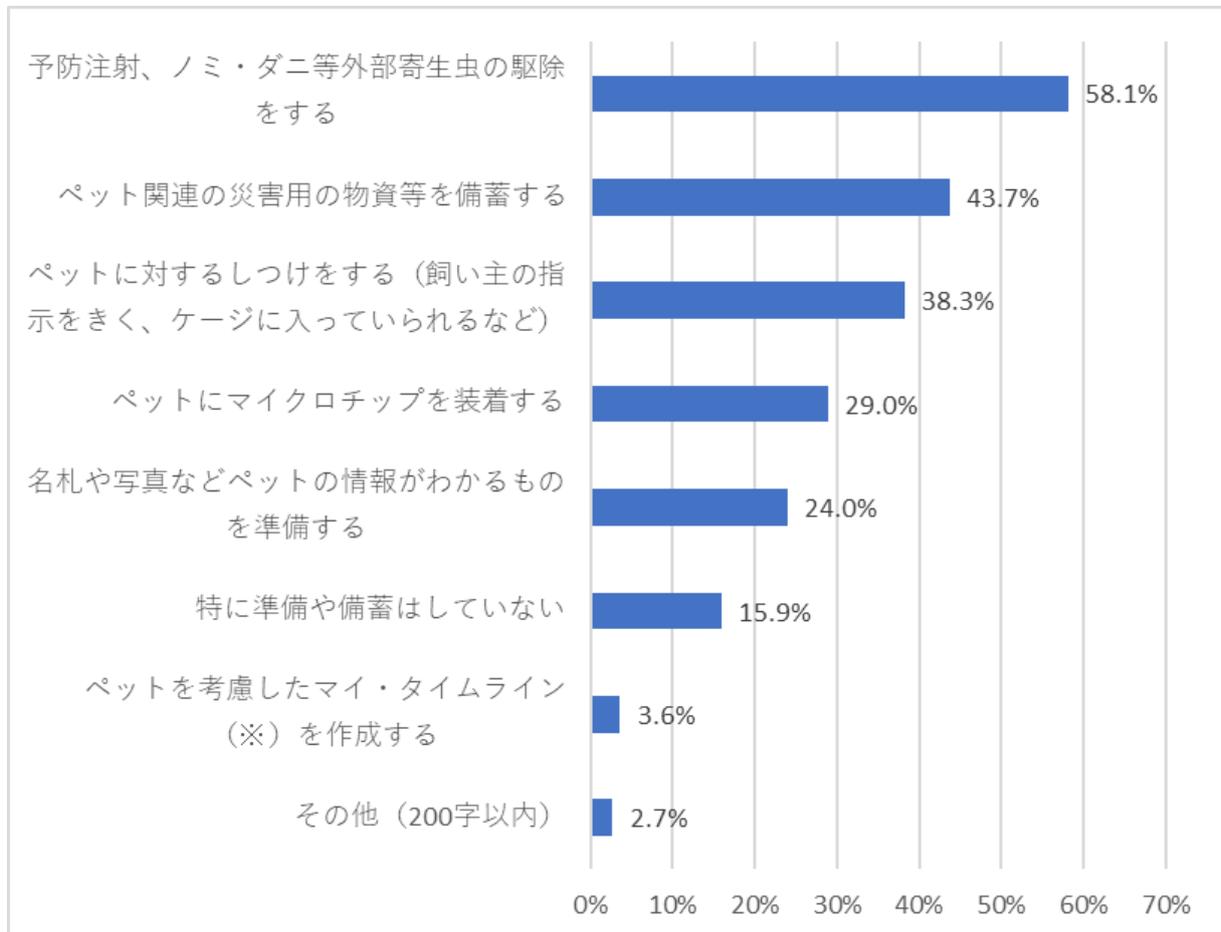
○全体として、「充分だと思う」(1.6%)と「やや充分だと思う」(1.8%)を合わせた【充分】が3.4%、「どちらともいえない」が29.5%、「やや不十分だと思う」(21.9%)と「不十分だと思う」(45.2%)を合わせた【不十分】が67.1%となった。

【問7】（ペットを意識した災害への備え）

（問1で「犬を飼っている」、「猫を飼っている」、「犬と猫の両方を飼っている」、「その他の動物を飼っている」を選択した方へ）

ペットを意識した災害への備えとして、以下のことに取り組むことが重要です。あなたは、このうち、どのようなことに取り組んでいますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=334)



※マイ・タイムラインとは、災害時の個人の防災行動を時系列的に整理した計画表です。

○全体として「予防注射、ノミ・ダニ等外部寄生虫の駆除をする」が58.1%と最も高く、次に「ペット関連の災害用の物資等を備蓄する」（43.7%）、「ペットに対するしつけをする」（38.3%）となった。一方、「特に準備や備蓄はしていない」が15.9%であった。

○「その他」（2.7%）として、次のような意見が挙げられた。（計9件）

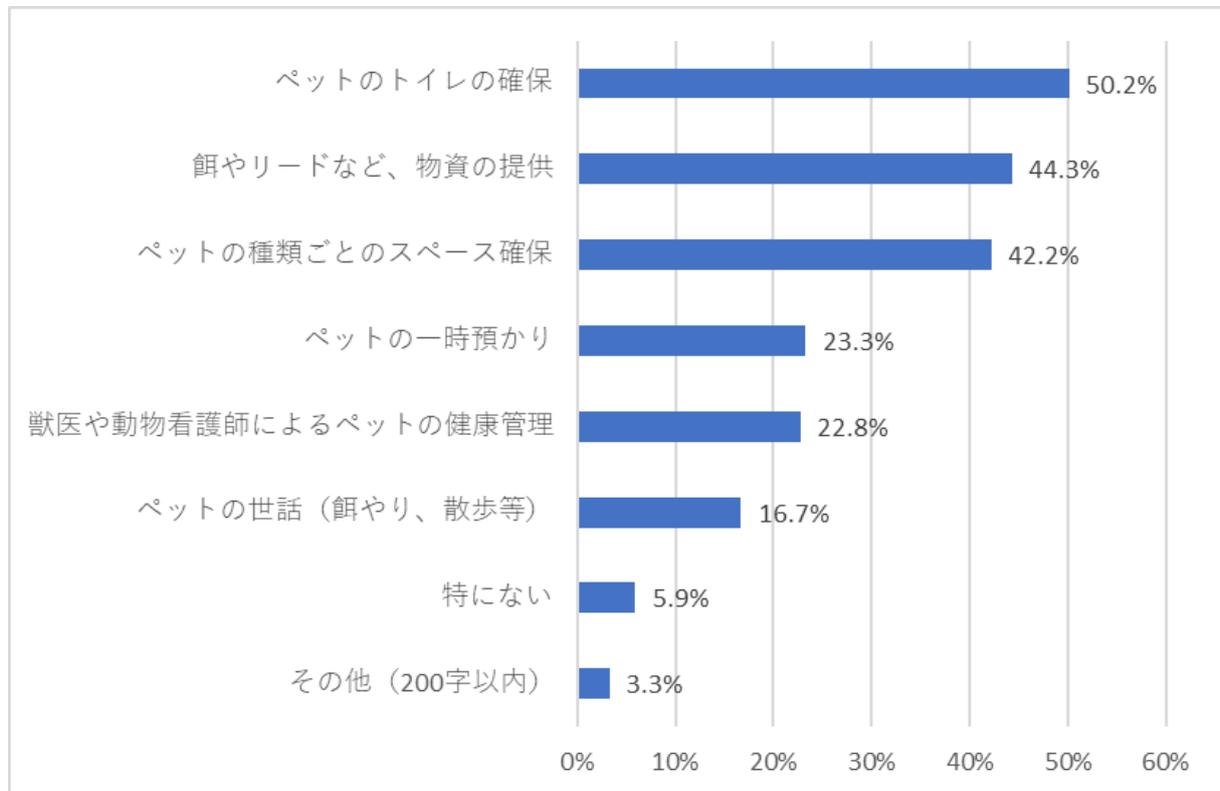
- ・去勢手術を施している。
- ・猫が4匹いるので、避難用に大きなケージをいくつか用意している。
- ・避難所の中にペットを入れるのではなく避難所の隣にペット専用の小屋のようなものを用意した方がいいと思う。各々ゲージに入れて、猫、その他の動物毎に別々の小屋に入れて欲しい。
- ・留守中の災害に備え、窓に「犬、猫がいます」のステッカーを貼っている。
- ・車をお世話スペースにできるように改良。

【問8】（ペットに関して受けてたい支援）

（問1で「今まで飼ったことはなく、今後飼う予定もない」以外を選択した方へ）

あなたは、ペット同行避難をした際に、ペットに関してどのような支援を受けたいですか。次の中から、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

(n=874)



○全体として「ペットのトイレの確保」が50.2%と最も高く、次に「餌やリードなど、物資の提供」（44.3%）、「ペットの種類ごとのスペースの確保」（42.2%）となった。

○「その他」（3.3%）として、次のような意見が挙げられた。（計29件）

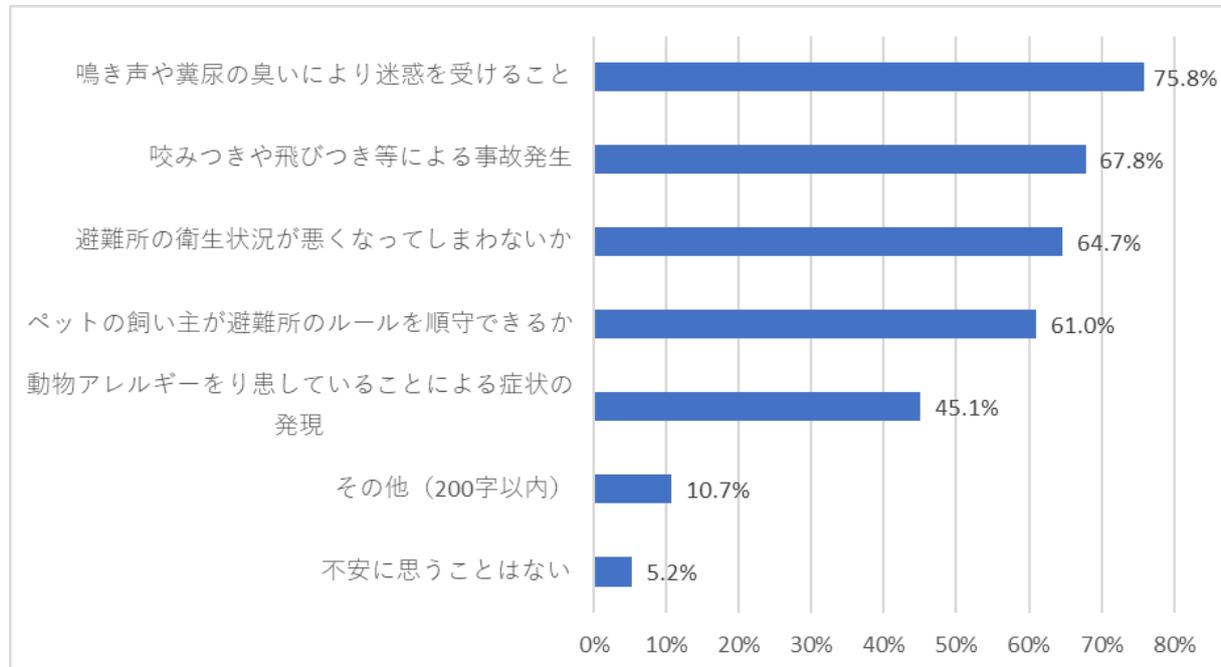
- ・アレルギー等で動物との距離を取らなければならない人もいらっしゃると思うので、そういった方も困らないよう十分なスペースの確保、それとペットのスペースにも可能な限り冷暖房がほしいです。
- ・避難所は、たくさんの方がいるので、人と動物は別の空間が望ましい。
- ・ペットを持つもの同士だけの場所。
- ・他の避難者やペットと接触せず、家族がペットと同じ空間で避難できる仕切りがある部屋等。
- ・車内で避難するための、ペット対応の車避難エリア。
- ・洗浄スペースの確保。

【問9】（ペット同行避難についての不安）

（問1で「今まで飼ったことはなく、今後飼う予定もない」を選択した方へ）

万が一災害が発生し、避難所に避難する必要がある場合に、あなたは、ペットが避難所にいることについて、どのようなことに不安を感じますか。次の中から、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

(n=326)



○全体として「鳴き声や糞尿のにおいにより迷惑を受けること」が75.8%と最も高く、次に「咬みつきや飛びつき等による事故発生」(67.8%)、「避難所の衛生状況が悪くなってしまわないか」(64.7%)、「ペットの飼い主が避難所のルールを順守できるか」(61.0%)となった。

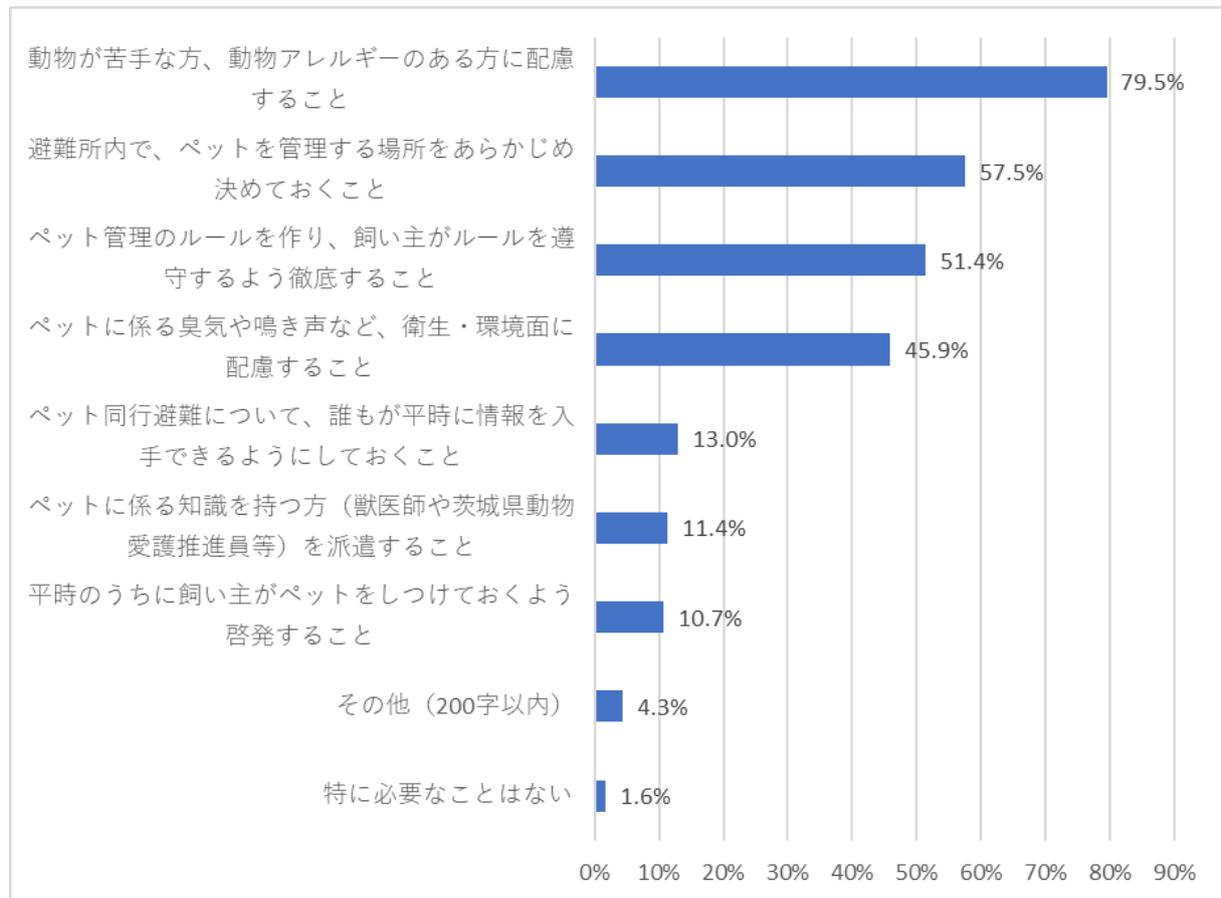
○「その他」(10.7%)として、次のような意見が挙げられた。(計 35 件)

- ・自分自身というより、乳幼児や障害児者との間に摩擦が生じないか心配。
- ・ペットについての考え方の違いで人間同士が争うことへの懸念。
- ・ペットの飼い主のモラルの徹底は不可欠。
- ・ペット同行避難をしたとしても、人とペットの避難スペースが完全に別であるかどうか。
- ・ペット動物にとってのストレス。

【問 10】（避難所の体制整備を進める上で必要なこと）

あなたは、ペット同行避難に向けた避難所の体制整備を進める上で、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

(n=1,106)



○全体として「動物が苦手な方、動物アレルギーのある方に配慮すること」が79.5%と最も高く、次に「避難所内で、ペットを管理する場所をあらかじめ決めておくこと」（57.5%）、「ペット管理のルールを作り、飼い主がルールを遵守するよう徹底すること」（51.4%）、「ペットに係る臭気や鳴き声など、衛生・環境面に配慮すること」（45.9%）となった。

○「その他」（4.3%）として、次のような意見が挙げられた。（計48件）

- ・緊急時こそ、ペット同行避難可能な避難所の情報に容易にたどり着けるようにしておくべき。
- ・ペットの避難に配慮した施設づくりや、柔軟な対応が取れる職員を養成すること。SDGsの理念に沿ってペット同伴者が差別されることなく当たり前のように避難できるような仕組みづくり、職員の意識向上を図ること。
- ・ペットの定義を明確にすることが必要だと思います。
- ・（同行避難のために）準備した方がよい物、管理方法などの情報提供があると、参考になると思います。
- ・ペット同行専用の避難所を作るべきだと思います。盲導犬や介助犬とは区別して考えるべき。
- ・受け入れる場合であっても場所をきちんと分ける必要がある。特に動物が苦手な人などのもとにペットが行かないようにすることが大切である。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・「ペット同行避難」の普及啓発効果を検証するために「ペット同行避難の認知状況」を確認したところ、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがある」と答えた人の合計は73.1%で7割を超えたことから、啓発について一定の効果が認められた。
- ・災害時における円滑な避難実施に向けては、各自の事前の備えが重要であるため、「同行避難ができる避難所の認知状況」を確認したところ、ほとんど知られていない結果となり、普及啓発への課題が散見された。
このため、県の「災害時における愛玩動物救護マニュアル」に基づき、あらかじめ同行避難ができる避難所を選定し、住民周知を行うという「市町村の役割」及び、あらかじめ同行避難ができる避難所を把握し、避難先を決めておくという「飼い主の役割」の周知に努めると共に、市町村及び飼い主双方がペット同行避難について主体性を持てるよう、効果的な啓発活動を検討していく。
- ・同行避難所について、「ペット同行避難者と一般者は部屋を分ける必要がある」「同じ場所にはいてもらいたくない」というご意見があったことから、「同行避難」(※1)と「同伴避難」(※2)の違いについて、十分に理解されていないことが窺われるため、分かりやすい情報発信を行っていく。
(※1) 同行避難：災害時に飼い主がペットを連れて避難所等に行き、飼い主を含む避難者とは別の空間で、ペットを飼育管理すること
(※2) 同伴避難：避難所等において飼い主がペットを同室で飼育管理すること
- ・飼い主による事前準備を推進するため、本県は「飼い主とペットの備えチェックリスト」を作成して啓発を行っていることから、「ペットを意識した災害への備え」の状況を確認したところ、「予防注射等」は約6割が実施していた。一方で、「ペットを考慮したマイ・タイムライン」を作成している人は3.6%に留まり、災害発生時に飼い主がどのように行動するのか、という計画面での課題が認められた。
災害が発生した際の個人の防災行動計画であるマイ・タイムラインは、県の防災部局においても作成の推進、普及啓発が図られており、今後は動物愛護部局としても同様に、ペットを考慮したマイ・タイムラインについて、飼い主に対しHPやSNS等を活用した広報活動を通して作成を促していく。
- ・県民の「ペット同行避難」に対する課題認識傾向が把握できたことから、避難所を設置、運営する市町村との会議や、県が主催する市町村職員を対象としたペットの防災対策に係る研修会の際の参考資料として本調査結果を活用し、ペット同行避難のより円滑な実施に向けた取組を検討、推進していく。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：2024年5月20日～2024年6月2日

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,517名

回収率：72.9%（回収数1,106名）

回答者の属性：以下の通り

		人数（人）	割合（%）
全体（n）		1,106	100.0
地域別	県北	87	7.9
	県央	327	29.6
	鹿行	66	6.0
	県南	347	31.4
	県西	91	8.2
	県外	188	17.0
性別	男性	463	41.9
	女性	643	58.1
年齢別	16～19歳	10	0.9
	20～29歳	60	5.4
	30～39歳	172	15.6
	40～49歳	302	27.3
	50～59歳	297	26.9
	60～69歳	167	15.1
	70歳以上	98	8.9
職業別	自営業	84	7.6
	会社員	435	39.3
	団体職員	45	4.1
	公務員	52	4.7
	主婦・主夫	236	21.3
	学生	21	1.9
	無職	117	10.6
	その他	116	10.5

(2) 担当課

茨城県保健医療部生活衛生課（動物愛護グループ）

電話：029-301-3418 E-mail：seiei1@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。